

平成 29 年度 校長だより



不撓不屈

【糸満市立糸満中学校 教育目標】
 【知】主体的に学び
 【徳】心豊かで勤労を大切にする
 【体】心身ともに健康な生徒

【 強い意志をもって、どんな苦勞や困難にもくじけないこと 】

発行者 校長 與那覇正樹

平和学習～慰霊の日にかけて～

6 月 19 日 (月) に久保田暁 (糸満市教育委員) 氏を講師に平和学習が開催されました。体育館に集まった全校生徒を前に、当時の白銀堂や山巔毛 (さんていんもう) をスクリーンに写しだし当時の糸満市の様子を語ってくれました。また、沖縄戦が、女性やお年寄り、子どもを含む一般の住民を巻き込んだ悲惨な戦争であることや「ひめゆり学徒」をはじめとする学生たちも根こそぎ動員されるなど沖縄戦の特徴、当時の住民が 4 人に 1 人が命を落としたことや自らの家族について語りながら「人が人でなくなる戦争の悲惨さ」「命の尊さ」について、平和の大切さを語ってくれました。



さらに、白銀堂にまつわる以下の格言を引き合いに、争うことがいかに人を不幸にすることについて語りながら、生徒に皆さんへメッセージを残してくれました。久保田暁先生、お忙しいなかありがとうございました。

「意地ぬ出じらあ 手引き 手ぬ出じらあ 意地引き」
 (イジヌイジラー、ティーヒキ ティヌイジラー、イジヒキ)

※糸中の生徒の皆さん、一般住民を巻き込み、20 万余 (平和の礎の刻銘者数 241, 414) の尊い命が奪われた沖縄戦ですが、子や孫に「二度とあの悲劇を繰り返させてはならない。」と「戦争の悲惨さ」「命の尊さ」を伝えてきた方々が高齢になります。「平和な沖縄をつくって、二度と苦しい思いを若い人たちにはさせたくない・・・」戦争体験者たちの想いを私たちはどのように引き継いでいけるのでしょうか？戦争を体験していない我々の世代になっていきます。私たち、一人ひとりにできることは・・・

「慰霊の日」沖縄全戦没者追悼式



6 月 23 日、糸満市摩文仁の平和祈念公園にて「平成 29 年沖縄全戦没者追悼式」が開催されました。0 時の時報とともに黙祷が捧げられ、式が厳かに進行し、献花・平和宣言・平和の詩の朗読がなされ、戦争の犠牲になった多くの方々への哀悼の誠が捧げられました。式のなかで、沖縄県の中学生を代表して本校 3 年生の伊敷万夢さんと瑞慶覧大雅さんが献花をおこないました。

また、平和祈念公園内にある「全学徒隊の碑」(沖縄戦で県内 21 の師範学校・中等学校の学徒が戦場に駆り出された事実を後世に伝える碑)の前で、本校の伊敷万夢さん、瑞慶覧大雅さんはマスコミの取材に

「今の私たちと同じ年齢で戦争の犠牲となったこと・・・」や「今後、悲惨な戦争を伝えていかなければ・・・」と想いを述べていました。



平和の詩「誓い～私達のおばあに寄せて」

【抜粋】 宮古高 3 年 上原愛音 (ねね) さん
 おばあ、大丈夫だよ。
 今日、私達も祈っている。
 尊い命のバトンを受けて
 今 祈っている。
 おじい、大丈夫だよ。
 この島にはまた 笑顔が咲き誇っている。
 私達は 貴方達の想いを
 指先にまで流れるあの日の記憶を
 いつまでも 紡ぎ続けることができる。
 誓おう。
 私達は この澄んだ空を 二度と黒く染めたりしない。
 誓おう。
 私達は この美しい大地を 二度と切り裂きはしない。
 ここに誓おう。
 私は、私達は、この国は この世界は
 きっと愛しい人を守り抜くことができる。
 この地から私達は 平和の使者になることができる。
 六月二十三日。
 銀の甘蔗 (かんしょ) が清らかに揺れる今日。
 おばあ達が見守る空の下
 私達は誓う。
 私達は今日を生かされている。

特設授業：1年1組～4組(内山直美教諭)

6. 23から考える沖縄県 ～あなたも語り継ぎべ～

慰霊の日を前に内山直美教諭による社会科の特設授業が1年1組から5組で実施されました。「戦後72年がたった沖縄で私たちはどのような役割を担っていったらよいのでしょうか？」を課題に授業が進められました。以下、授業の内容です。



① 歌から考える6月23日として「いのちのリレー」を聞き、歌詞から気になるキーワードを拾いだしました。

【巡り巡って出会った命】【あなたは、今、幸せですか】

【大切な命を繋いで】【わたしが語り継ぐ】【赤い海】【黒い空】

【あの日をもう二度と繰り返さないように】【繋がる涙】【繋がる笑顔】

※ 「命のリレー」は、Kiroroと仲宗根泉さん(HY)の3人が結成した「さんご」の曲で、「悲惨な戦争を必死で生き抜いて、いのちをつないでくれた先人たちがいたからこそ、今の私たちがいる。いのちを大切に次世代にリレーしていこう」という内容の曲

② 家族に語る沖縄戦(NHK放送局制作)・・・大学生が祖父の戦争体験を聞き取る内容。悲惨な戦争の記憶を尋ねていいものか？葛藤する孫が、祖父の描いたスケッチブックの絵をもとに、祖父に戦争の体験を聞き取る内容を視聴。



③ **語り部 と 語り継ぎべ** ※ 沖縄戦を体験した方々が高齢化するなか、次世代の私たちが悲惨な戦争と命の尊さをどう伝えていくか？ みんなで考えていきましょう。

1学年道徳公開授業 平和を願って～沖縄戦の語り継ぎべになろう!!～



6月28日(水)6校時に1学年の全クラスにおいて道徳の公開授業がおこなわれました。社会科の特設授業を受け、4/28(サンフランシスコ平和条約)5/15(沖縄の日本復帰)6/23(慰霊の日)の歴史的背景を振り返りながら授業が始まりました。その後、NIE(Newspaper in Education=新聞を教材として活用すること)の手法で一人ひとりが新聞を活用(ワラビー・りゅうPON)し、沖縄戦の体験者の証言を読み解き(キーワードを思い思いにピックアップ)しました。さらにグループで話し合いをしながら他者に語り継ぐ内容をワークシート・画用紙にまとめる活動をおこないました。「今日からあなたも沖縄戦の語り継ぎべ」として家族の誰か一人に語り継いでいきましょうと授業が終わりました。是非、1年生の保護者の皆さん、授業で学んだ内容を家族で話題してみたいはいかがでしょうか？(エンディングにHYの「時をこえ」が流されました。)

平和への願い込めた読み聞かせ 「いただきます」 ～糸風(イーファー)・生徒会(図書委員等)!!～

6月22日(木)朝の全体朝会において生徒会図書委員と学校を支援していただいている読み聞かせボランティア「糸風(イーファー)」が、慰霊の日に向けて読み聞かせをおこなってくれました。沖縄戦でヤンバルに疎開し、さらに戦火を逃れるために山中に避難した親子が、食べ物がない状態が続く、大切な家族を・・・戦争の悲惨さと命の尊さを伝える内容でした。生徒とボランティアの皆さんの心に響く読み聞かせ・歌・三線が静かに体育館に響きわたりました。

糸風(イーファー)=比嘉 優子 上原 孝子 石丸 乃り子 中村 美香 新里 ちかこ
3年 図書委員=玉城 彩音 當銘 祈 大城 ちはる 徳永 あい
機器=田畑 和馬(2年) 朝倉 七海(2年)
三線=大城 律舞(2年) 山城 美帆(3年) ありがとうございます。

